



グローバル・フォーラム会報

THE GLOBAL FORUM OF JAPAN BULLETIN, Spring 2018 Vol.19, No.2

世界との対話「ユーラシア2025」



現在、世界は国際秩序の変動期に差し掛かりつつあるが、中でもユーラシアでは、中国による「一帯一路」構想の進展や欧州の先行き不安等に加え、インド、中央アジア、コーカサス等の地政学的要衝をめぐる緊張関係の高まりが顕著であり、国際社会全体にとってその変動の着地点が注目されている。

このような認識に基づいて、グローバル・フォーラム (GFJ) は、仏国際関係戦略研究所 (IRIS) との共催により、2月28日、東京で「世界との対話：ユーラシア2025」を開催した (写真)。当日は、海外から仏国際関係戦略研究所所長のパスカル・ボニファス博士に加え、スコット・シーマン・ユーラシア・グループ・アジア担当部長とダニエル・コスナザロフ・ナルホズ大学戦略分析部長の2名の専門家も日本に招き、渡邊啓貴東京外国語大学教授等9

名の日本側専門家との間で活発な「対話」を行った。一般公開されたこともあって、参加者総勢は173名に上ったが、とくに注目された発言は次の通り。

○パスカル・ボニファス仏国際関係戦略研究所所長：現在、国際社会にとっての優先的な課題は、中国とロシアの動向を把握し、管理することだが、とくに中国に対し多国間主義に基づく行動をとることである。中国の市民社会と共産党政権は共存できるだろうか、また中国の台頭はアジア太平洋地域に留まっているだろうか。日本と欧州の共通の課題は、国際社会全体を多国間主義の方向に導くことである。

○ダニエル・コスナザロフ・ナルホズ大学戦略分析部長：西側世界が「世界の民主化」のアジェンダを放棄したことで、中央アジアは、従来からの「多方位外交」を継続しつつも、その外交

戦略における価値的側面を弱めている。中央アジアは、中ロ両国と隣接しており、また両国が既存の世界秩序に挑戦していることから、世界政治の「周辺を中心」という位置づけを受けている。ロシアは「危険性」を、中国は「共存共栄」を前面に打ち出し、それぞれに自国の勢力圏拡大を目指している。

○スコット・シーマン・ユーラシア・グループ・アジア担当部長：「一帯一路」をめぐる「リスクとオポチュニティー」について考えてみたい。リスクとしては、中国企業が大規模な資金的・政治的支援を得ることにより、相手国が中国スタンダードを強いられかねないこと、コネクティビティの向上による安全保障上の脅威の蔓延を抑止できなくなるなどが考えられる。オポチュニティーとしては、中国の存在がプロジェクトの持つリスクを引き受けるため、中国以外の国の企業がビジネス・ニッチを見出すことができること、中国の進出によってさらに競争力をもつ技術やサービス産業の成長が促されること、などが考えられる。日本に対しては「一帯一路」に関わる現地の有能な労働者を日本でも働けるよう配慮すること、日本の中小企業を「一帯一路」に参画させることなどを提言したい。

世話人会開催さる：渡辺蘭執行世話人等を選任

新年恒例の第30回 GFJ 世話人会 (伊藤憲一代表世話人) が1月19日に都内のホテルで開催され、豊田章一郎、茂木友三郎、石川洋の3経済人世話人 (写真) のほか、柿沢未途、末松義規の2政治家世話人、神谷万丈、伊藤剛の2有識者世話人も出席した (他に、渡辺蘭常任世話人、高畑洋平事務局長)。

当日は、前年度の「収支決算案」「活動報告案」、本年度の「収支予算案」「活動計画案」等に加え「世話人・メンバー名簿案」も承認された。なお、矢口敏和経済人世話人 (グローブシップ社長) が経済人世話人に、渡辺蘭常任世話人が執行世話人に、高畑洋平事務局長が常任世話人・事務局長に、選任された。



議論百出から

グローバル・フォーラムのホームページ (<http://www.gfj.jp>) 上のe-論壇「議論百出」への最近3ヶ月間の投稿論文を代表して、下記論文を紹介する。

消防飛行艇と防衛装備の輸出

軍事評論家 佐藤 有一

総務省消防庁が消防飛行艇の導入を検討しています。これは海上自衛隊の救難飛行艇US-2（陸・水上の両方で離陸水、着陸水できる飛行艇）を改造して消防飛行艇とする計画のようです。消防飛行艇の消火能力については、カナダや米国などの山林火災の消火で実証済ですが、日本ではその運用にあたって課題もあります。（1）US-2の機体価格が1機100億円以上すること、（2）消防飛行艇の運用実績がないこと等です。私は岩国と厚木に現在配備中のUS-2を改造し（消防装置の追加）、救難・消防飛行艇にすべきと考えます。消防飛行艇の改造は、過去に対潜飛行艇PS-1で技術実験が行われており、改造に必要な基礎データはあると思います

ます。また、US-2の改造とは別に、その後継機の導入も同時に検討すべきです。この新規導入する救難・消防飛行艇を、「防衛装備移転三原則」に基づく防衛装備として輸出できるように、機体製造に加えて点検整備施設、操縦・消火訓練装置、運用訓練・教育等を一体化したパッケージとして、国が主導すべきです。残念ながら国民の中には、武器輸出に対する根強い警戒感があります。しかし、救難・消防飛行艇は武装しておらず、武器としての要件は備えていません。今後、日本政府には、この点を国民に広く理解してもらえよう努力していただきたいと思います。

（2018年2月13日付投稿）

最近3ヶ月間で注目されたその他の論文

2/15 「米ロ代理戦争が本格化するシリア」（六辻彰二）
1/26 「問われる一帯一路協力の道義的責任」（倉西雅子）
1/16 「トランプの先に見えてくる新

軍産複合体」（大井幸子）
12/17 「儒教と日本の女性経済専門職」（池尾愛子）
12/11 「ドイツ情勢と欧州、世界情勢について」（真田幸光）

GFJ活動日誌（12-2月）

12月1日、2月1日 『GFJ-E-Letter』（通巻第65号、66号）発行
12月5日 第29回世話人会（書面によるみなし決議の臨時世話人会）
1月1日 『メルマガ・グローバル・フォーラム』（通巻第80号）発行
1月11日 第24回補佐人会（大熊裕二補佐人、仲野寿人補佐人他3名）
1月19日 第30回世話人会（豊田章一郎、茂木友三郎、石川洋の3経済人世話人他13名、ホテルオークラ「メイフェア」にて）
2月13日 Bert HOFMAN世界銀行中国・モンゴル・韓国担当局長来訪（河合正弘有識者メンバー他5名）
2月28日 世界との対話「ユーラシア2025：ポスト・パワーシフトの地政学」（Pascal BONIFACE 国際関係戦略研究所所長、Danyar KOSNAZAROV ナルホズ大学戦略分析部長、Scott SEAMAN ユーラシア・グループ・アジア担当部長、渡邊啓貴東京外国語大学教授等173名、ホテルオークラ東京別館「メイプルルーム」にて）

■新規就任世話人の紹介（1月分）

【執行世話人】

渡辺 蘭（常任世話人）

【常任世話人・事務局長】

高畑 洋平（事務局長）

【経済人世話人】

矢口 敏和（グローブシップ社長）

世界銀行からみた「一帯一路」について

さる2月13日、当フォーラムは、来日中のバート・ホフマン世界銀行中国・モンゴル・韓国担当局長（写真）を当フォーラムに招き、当フォーラムの河合正弘、飯田敬輔両有識者メンバーなど日本側6名と中国の「一帯一路」構想につき意見交換したところ、ホフマン局長の発言概要はつぎのとおり。

世銀は、中国の推進する「一帯一路」

構想を基本的に支持している。というのも、同構想に参画している途上国の多くが世銀の融資先であり、またこの構想が、途上国のインフラ環境改善や接続性強化に貢献しているからである。

ただし、同構想については、持続可能性、透明性、環境基準などをめぐりリスクがあるため、世銀としては中国当局との間で同構想のガバナンス強化

に向けた協議を実施している。



グローバル・フォーラム会報
2018年春季号
（第19巻 第2号 通巻第74号）

発行日 2018年4月1日
発行人 伊藤 憲一
編集人 高畑 洋平

発行所 グローバル・フォーラム
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-12-1301
[Tel] 03-3584-2193 [E-mail] gfj@gfj.jp
[Fax] 03-3505-4406 [URL] <http://www.gfj.jp/>